

## 平成23年1月の解説（府県天気予報）

### 【1月の天候状況】

上旬は、昨年末から旬のはじめにかけ強い寒気が西日本を中心に流入して強い冬型の気圧配置が続き、日本海側を中心に大荒れの天気となり、山陰では記録的な大雪となりました。その後も冬型の気圧配置が続き、日本海側は雪または雨の日が多くなり、太平洋側は概ね晴れました。中旬も冬型の気圧配置が続き、日本海側では雪または雨の日が多くなり、旬の中頃は日本海側だけでなく東海地方でも大雪となった所がありました。太平洋側は概ね晴れました。下旬は断続的に冬型の気圧配置が続き、日本海側は雪または雨の日が多くなり、旬の終わりは北陸地方を中心に大雪となりました。太平洋側は概ね晴れました。沖縄・奄美は、月を通して寒気や気圧の谷の影響で曇りや雨の日が多くなりました。

月を通しての日照時間は、西日本の日本海側と沖縄・奄美は平年より少なく、東日本の日本海側ではかなり少なくなり、月間日照時間の最小値を更新した気象官署がありました。一方、西日本から北日本の太平洋側は多く、特に、東日本の太平洋側ではかなり多く月間日照時間の最大値を更新した気象官署がありました。降水量は、北日本の日本海側で平年より多く、東日本の日本海側ではかなり多くなりました。一方、北日本の太平洋側は少なく、東、西日本の太平洋側ではかなり少なくなり、月降水量が0.0mmとなった気象官署がありました。気温は、北海道を除き全国的に平年より低く、特に西日本と沖縄・奄美ではかなり低くなり、月平均気温の最低値を更新した気象官署がありました。

### 【1月の検証結果】

17時発表の天気予報による「降水の有無」の全国平均の適中率は、明日予報は82%と例年<sup>(注)</sup>並みで、明後日予報は80%と例年より1ポイント高くなりました。地域毎の適中率は、明日予報は北陸地方で8ポイント高くなりましたが、近畿、沖縄地方は6ポイント低くなりました。明後日予報は関東甲信、北陸地方でそれぞれ7ポイントと6ポイント高くなりました。明日の最高気温の予報誤差はほぼ全国的に例年より0.3から0.6小さくなり、全国平均は0.4小さい1.1でした。最低気温の予報誤差もほぼ全国的に例年より0.2から0.3小さくなり、全国平均は0.2小さい1.4でした。

<sup>(注)</sup>例年値は気象庁HP（予報精度検証）内「月毎の精度の例年値」を参照してください。

### 【3月の天気予報の利用にあたって】

3月は冬と春がせめぎ合い一進一退をくりかえしながら、季節が進んでいきます。2010年3月10日は日本の東海上で急発達する低気圧の影響で全国的に大荒れの天気となって、東北地方で大雪となりました。一方、同年3月20日から21日にかけて日本海で急発達する低気圧の影響で、20日は全国的に高温となり、21日は広い範囲で暴風や大雨となりました。この時期の発達する低気圧は大雨を降らせたかと思うと大雪になるなど、大荒れの天気でも大きく様相の異なる場合があります。